

参 考 資 料 編

4 . プレゼン資料（株式会社日立物流）

日立物流における3PL事業の展開



ホームページ <http://www.hitachi-hb.co.jp/>

(株)日立物流

I. 当社のご紹介 会社概要

1

【商号】株式会社日立物流
Hitachi Transport System, Ltd.

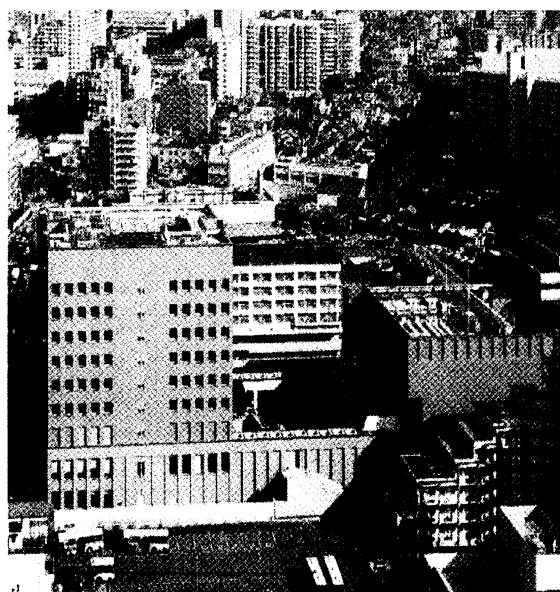
【創業】1950年2月

【本社所在地】東京都江東区東陽7-2-18
〒135-8372 Tel (03) 5634-0333

【代表者】取締役社長 山本 博巳

【資本金】168億2百万円(東証一部上場)

【従業員数】15,000人



【日立物流グループ会社】(2003年3月31日現在)

(社)

国内(29社)						海外	合計
陸運	海空	整備	旅行	情報	その他		
17	6	2	2	1	1	22	51

Ⅱ. 3PL事業への取組み

(1) 3PL事業の位置付け

1. 3PLビジネスの位置付け

2

お客様のロジスティクスをフルサポート



(2) 3PL事業とは

3

従 来

荷主は「物流を自社でコントロールし、物流サービスを複数業者から購入することによってコストダウンを図る」

更なる
改善

3PL導入後

より高度なロジスティクスやSCM(サプライチェーンマネジメント)を構築する為、専門性の高い3PL業者に一括委託する

お 客 様 メ リ ッ ト

- 物流コスト低減
 - ・ 物流コストの明確化
 - ・ 物量の増減に対応したコスト
- 顧客サービスの向上
 - ・ リードタイム圧縮
 - ・ 多様化する納入ニーズへの対応
- コア事業への特化
 - ・ 本業への資源集中 (人・物・金)
 - ・ 商物分離による効率向上

3 P L 業 者 の 要 件

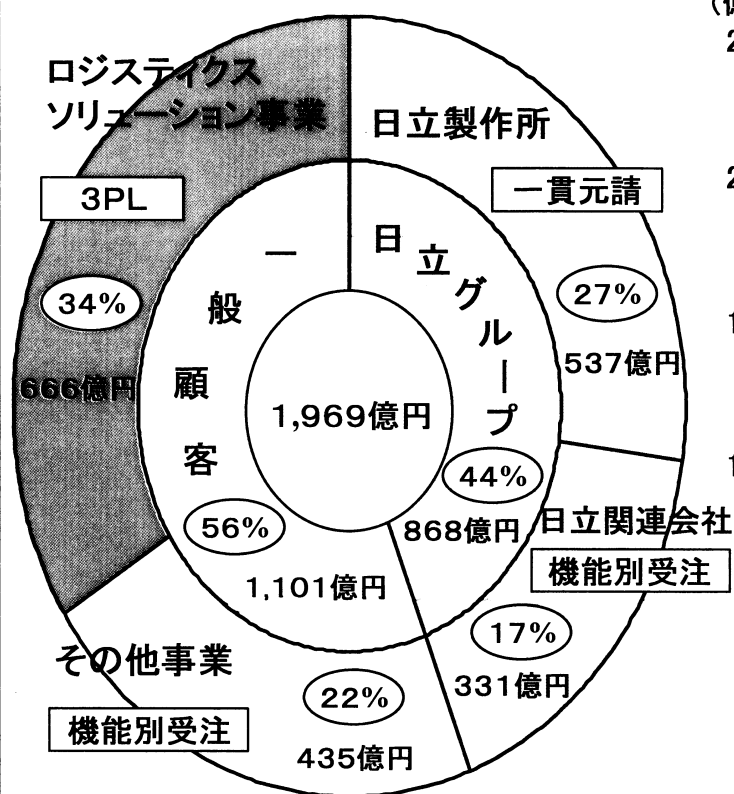
- 顧客の物流システムを設計・改善する能力
- 物流情報システムのソフト力・開発力
- あらゆる物流業務をコントロールできる運営力
- リスクを負担できる企業体力

日 本 の 3 P L 業 者

- ・ 物流会社
 - ・ 情報システム会社
 - ・ 商社、卸売り業者
 - ・ コンピューターメーカー
 - ・ コンサルタント会社
 - ・ 物流機器メーカー
- (あらゆる企業に参入の可能性)

(3) 売上構成 '01年度(単独)

4

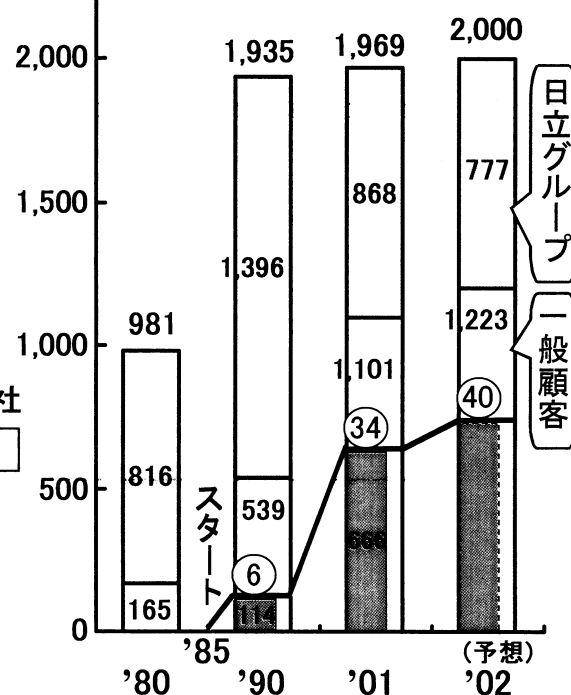


(億円/年)

2,500

■ はロジスティクスソリューション事業 (3PL)

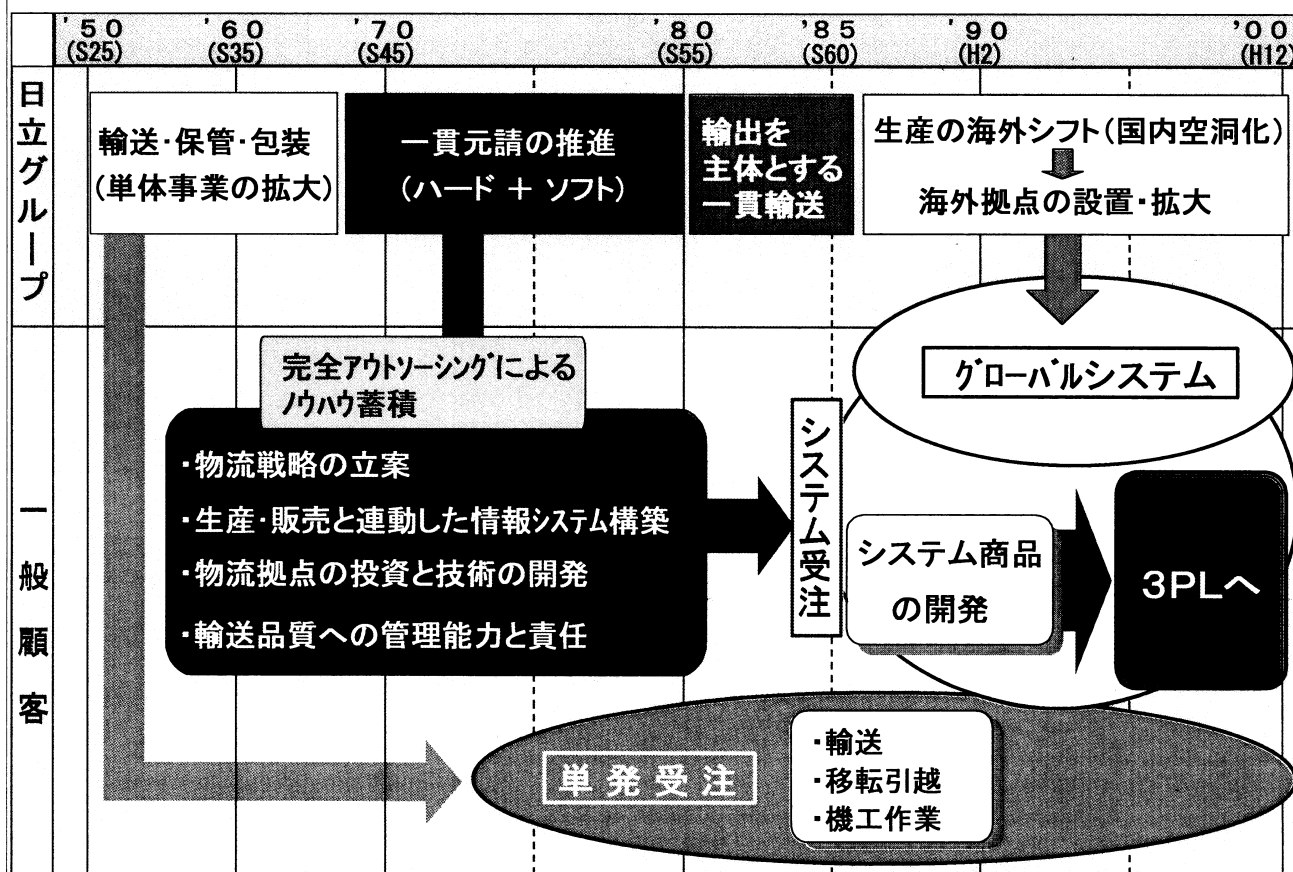
○ 内数値は構成比 (%)



(4) 3PL事業への参入経緯

2.3PLビジネスへの参入について

5



(5) 国内事業所ネットワーク

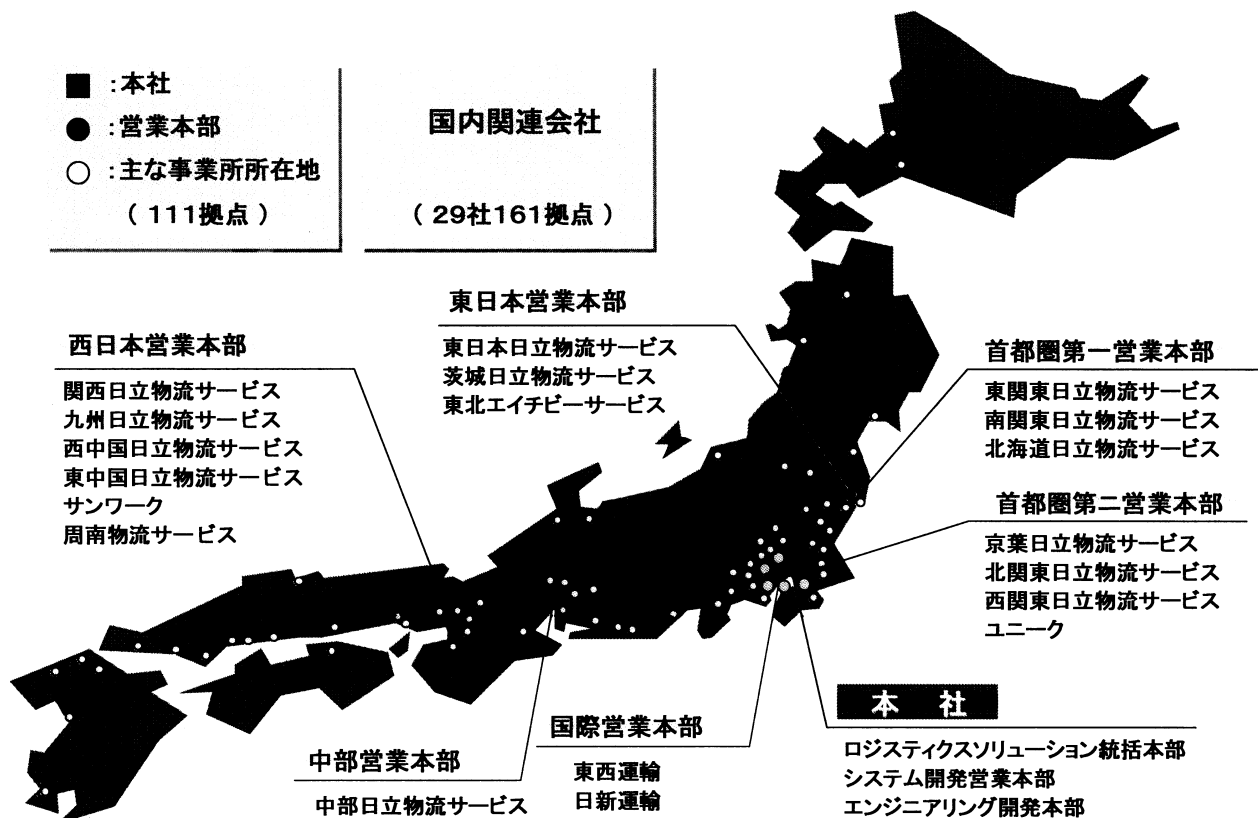
6



- : 本社
- : 営業本部
- : 主な事業所所在地
(111拠点)

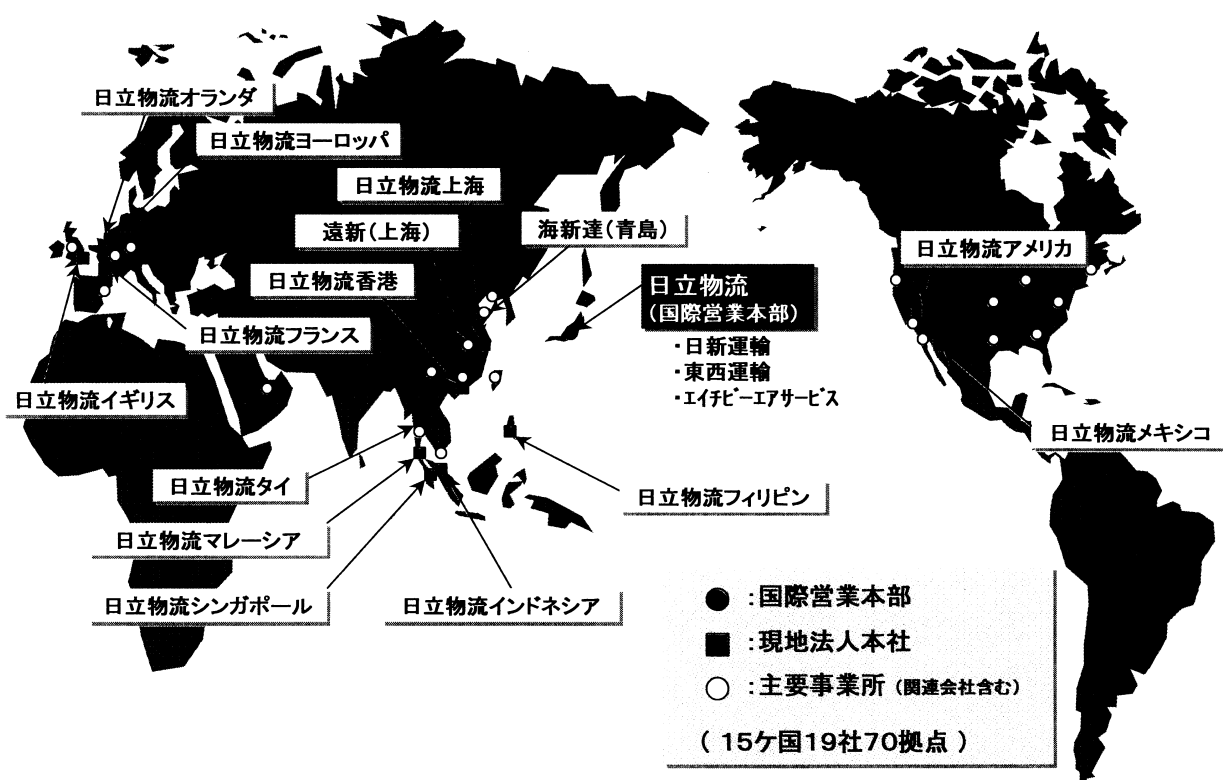
国内関連会社

(29社161拠点)



(6) 海外事業所ネットワーク

7



(7) 3PL業務内容

3.3PLとしての業務内容

8

1) ロジスティクスエンジニアリングサービス

ロジスティクス・エンジニアリング (LE: Logistics Engineering) : 物流ニーズの解決のため、各種手法やツールを駆使した技術的アプローチ

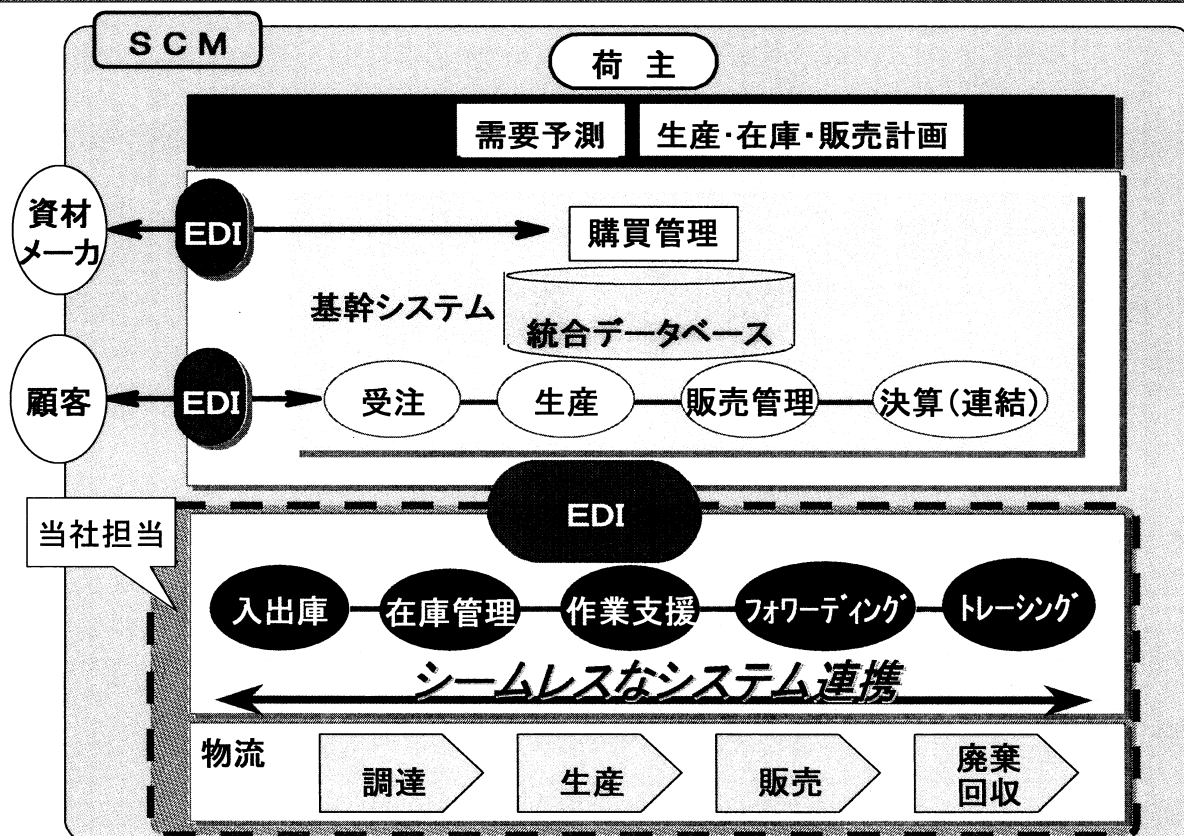
サービス内容		お客様ニーズ	総合システムレベル										個別作業レベル											
			物流システム診断	物流システム改善	物流サービス適用	新物流システム構築	物流拠点計画	運用計画提案	物流システム	国際物流	廃棄物流・静脈物流	法的対応	ローコストオペレーション	業務代行	物流センター運営・構築	作業支援システム	物流管理精度向上	安全・品質保証	省力化・省人化	OA・FA化	貴重品・精密品輸送	易損品・長尺品・省資源包装	リサイクル・省資源包装	物流機器試作・開発 実用化・効果検証
↑システムツール領域 ↓ハード領域	1. 物流コンサルティング	物流コンサルティング	●	●	●	●	●					●									●			
		物流拠点計画											●											
		輸送・配送	●	●	●	●								●										
		構内作業改善	●					●							●	●			●	●				
	2. 物流VE	物流システムシミュレーション		●	●			●																
		物流VE		●	●								●											
	3. 採算分析・投資計画																							
	4. 情報システム	インターネットによるトレス情報														●	●				●			
		配車管理システム		●															●	●				
		自動FAX送信システム														●	●			●	●			
	5. FA・自動制御技術	無線ハンディターミナルシステム		●	●											●	●			●	●			
		C/Sによる自動制御		●	●	●										●	●			●	●			
		パソコンによる自動制御		●	●											●	●			●	●			
6. 情報端末利用技術	バーコード検査システム		●	●											●	●			●	●				
	フォークリフト無線システム		●	●											●	●			●	●				
7. 物流センター建設計画	物流センター建設計画		●	●	●			●		●														
8. 自動化機器・システム	自動化機器・自動化システム		●	●																				
9. 特殊品輸送技術													●			●								
10. マン機関係開発	電動立架機能付き階段昇降装置															●	●			●			●	
	ネスティング台車															●	●			●			●	
	自走式けん引台車															●	●			●			●	
11. 包装技術	包装設計と包装改善提案									●						●				●		●		
	製品強度・包装機能評価によるコスト低減															●				●			●	
12. 物流環境測定	食器梱包資器材（しきりくん）																●						●	
13. 特殊装備車両開発	物流環境測定サービス															●				●			●	
	特装車トータルサービス										●					●				●			●	

2) 物流情報サービス

6.3PLに必要な情報システムについて

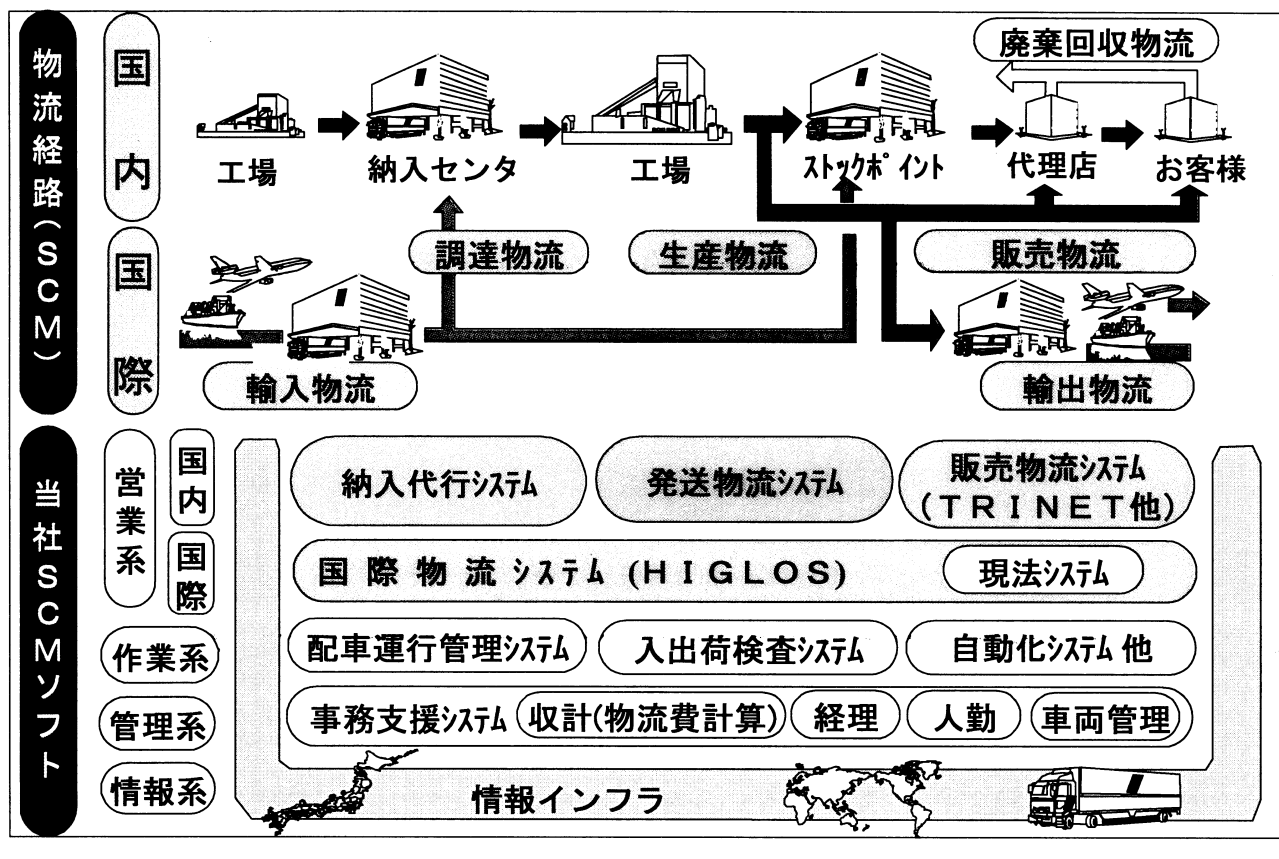
9

① SCMと情報システム



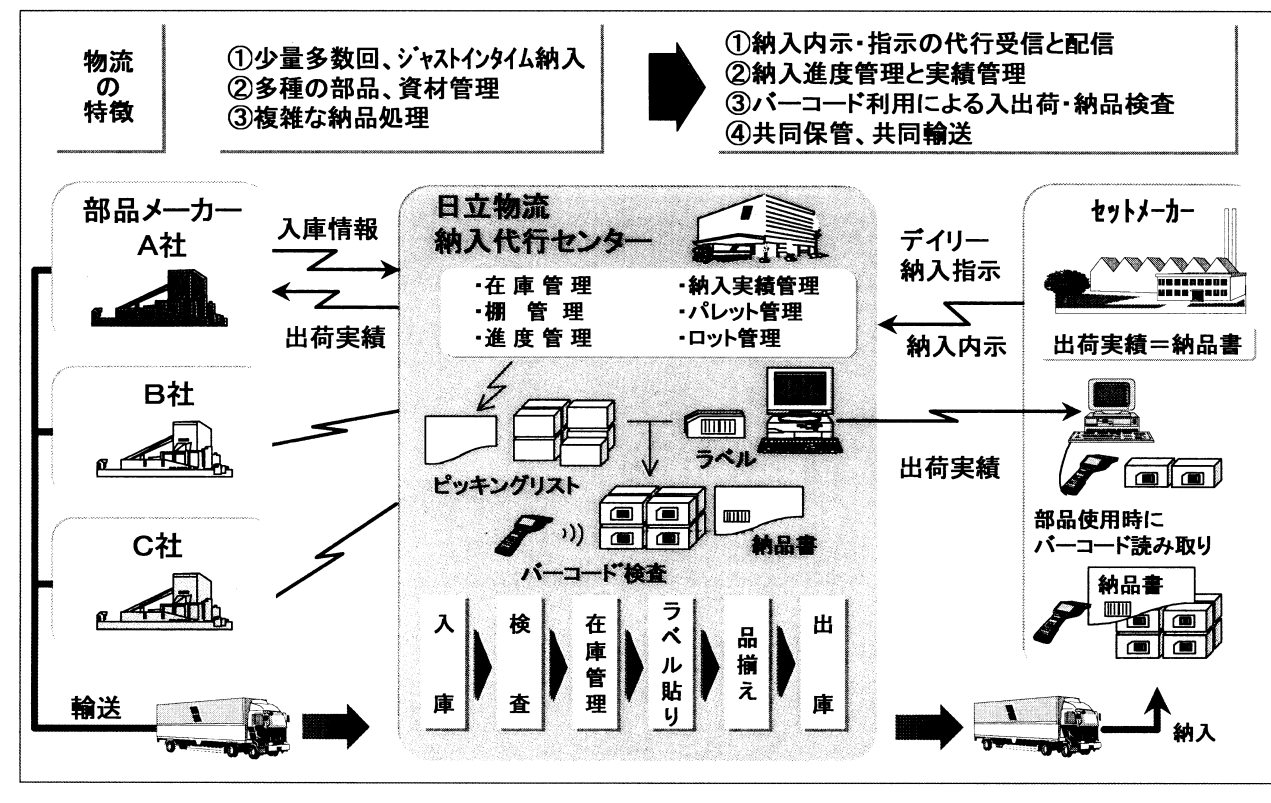
②物流経路とSCMソフト

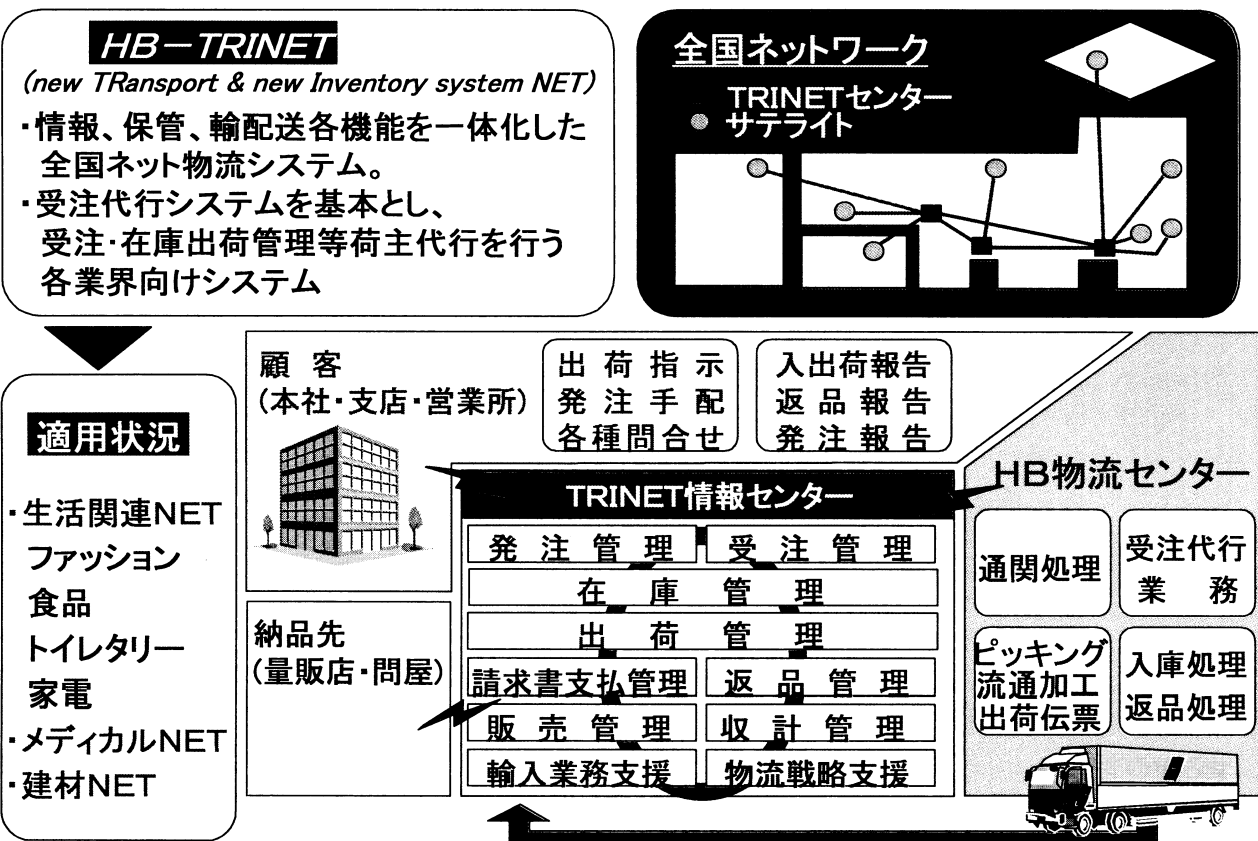
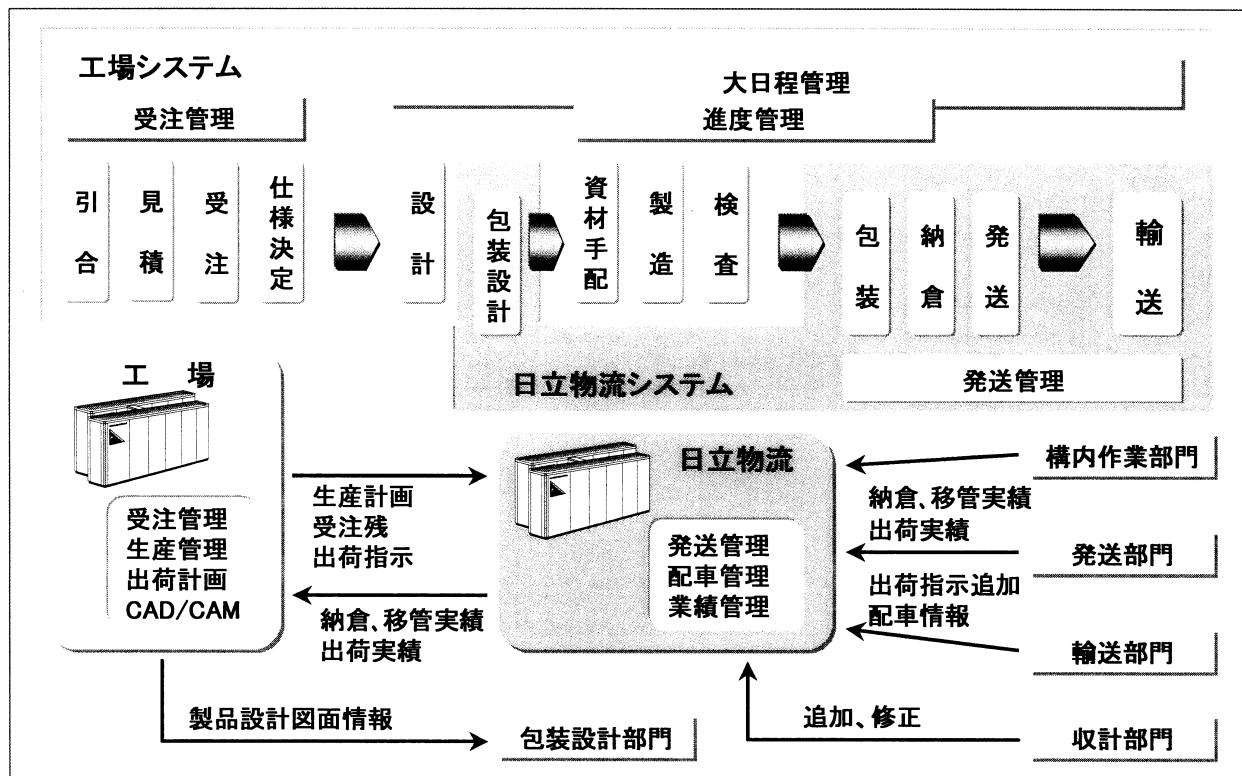
10



納入代行システム

11





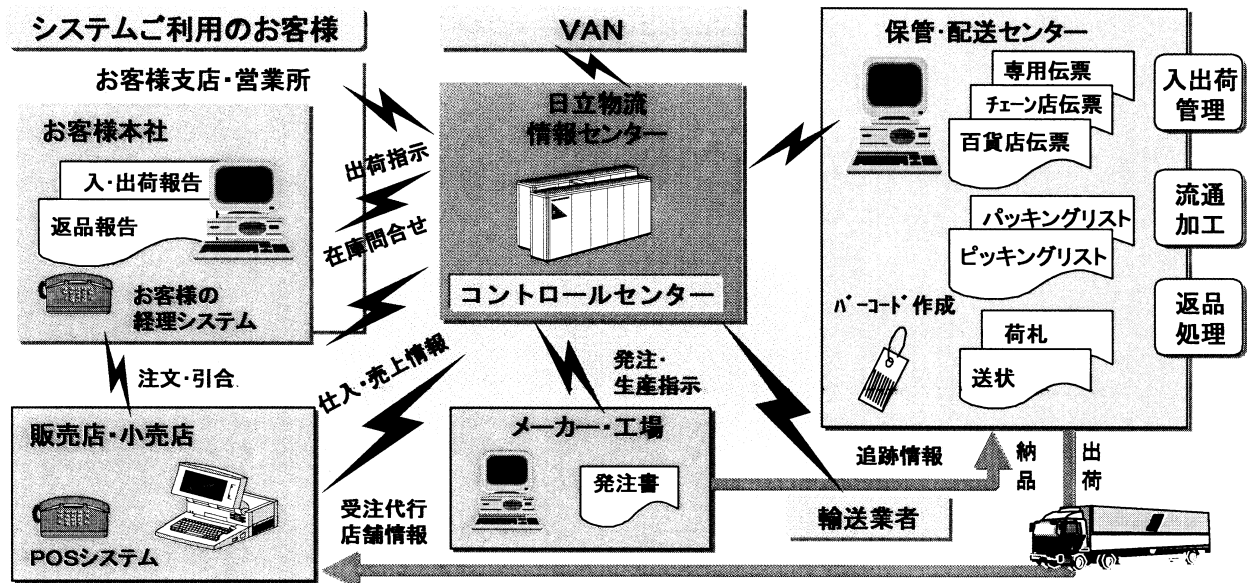
実績事例①(ファッションネット)

14

物流の特徴

- ①少量多品種、多頻度納入
- ②季節変動大
- ③回転率が高い
- ④流通加工比率大

- ①色／サイズ別在庫管理システム
- ②作業支援システム(流通加工、パート管理)
- ③専用伝票、統一伝票、値札の機械出力
- ④各種管理資料の提供
(売れ筋商品情報、素材別売上、顧客別売上順位等)



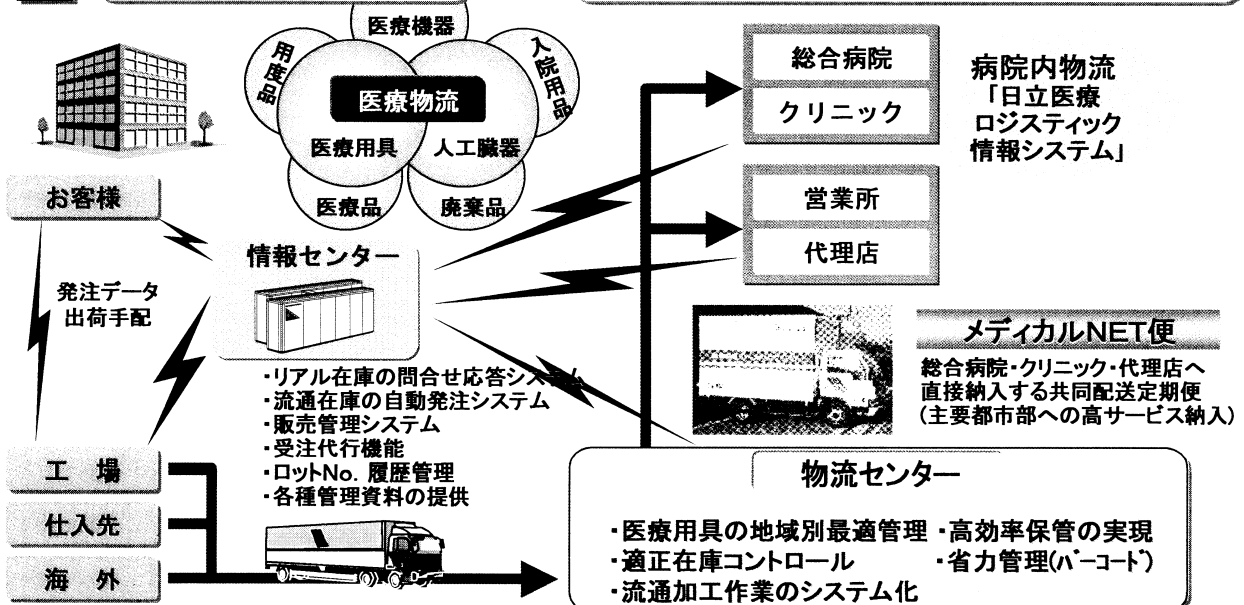
実績事例②(メディカルネット)

15

物流の特徴

- ①病院の荷受け条件が厳しい
- ②品質管理が厳しい
- ③煩雑な緊急処理
- ④廃棄品回収

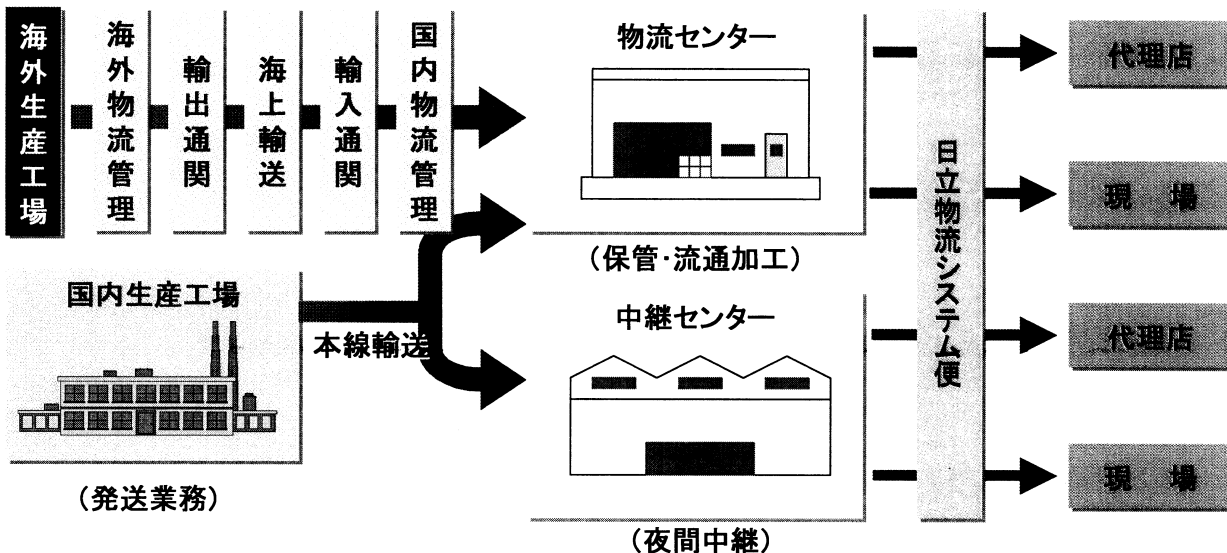
- ①全国ネットワーク
- ②共同配送便構築
- ③ロット別在庫管理、発送履歴管理
- ④流通在庫の倉庫間移動支援システム



物流の特徴

- ①セット組商品と個別商品管理
- ②長尺物、重量物を含む商品
- ③工事の進捗に合わせた納品

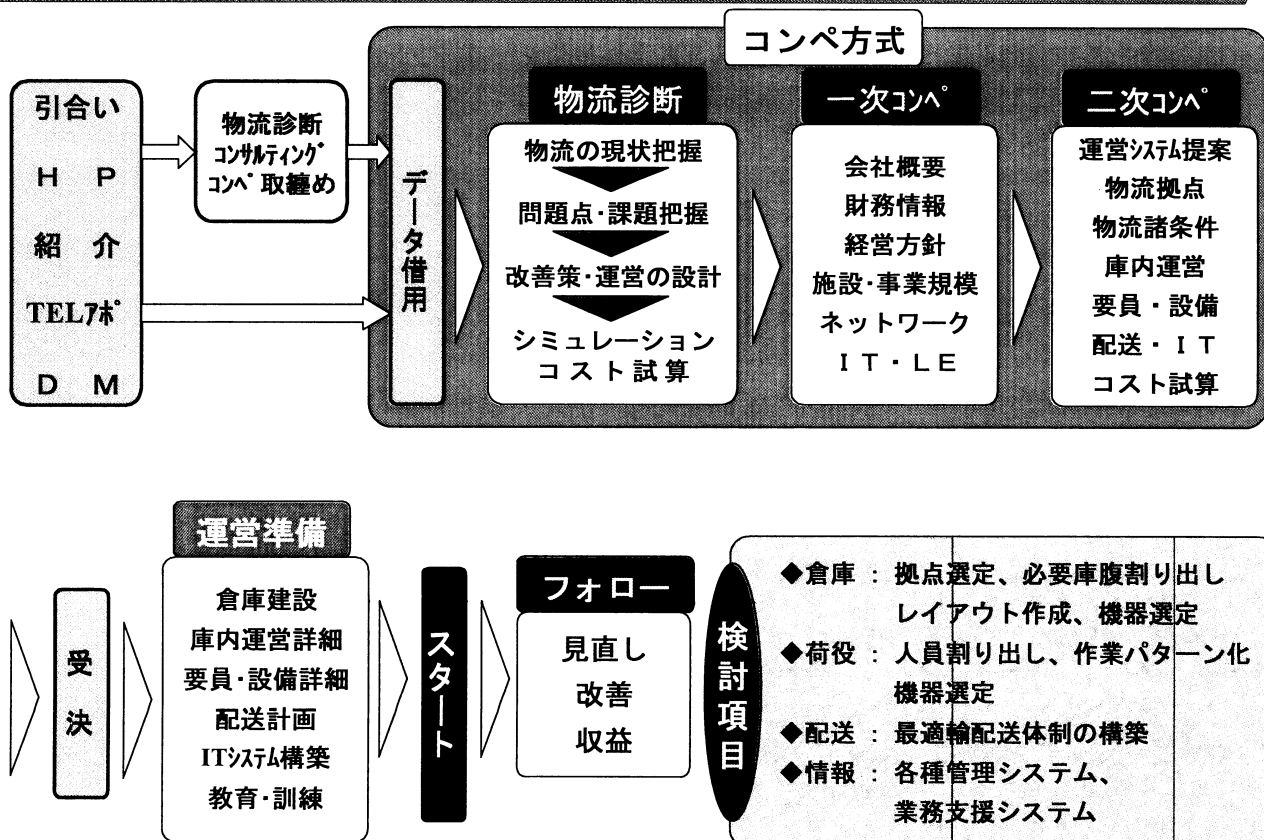
- ①品揃え、セット品管理システム
- ②中継物流システム構築
- ③情報連絡機能の充実



(8)顧客獲得までの経緯・方法

4.顧客(荷主)獲得までの経緯・方法

17



Ⅲ. 3PLの具体的事例 (1) adidas アディダスジャパン

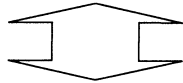
5.3PL契約について(具体的な受託事例)

18

顧客 SCM 対応

お客様

商品企画・仕入
・販売機能



日立物流

受注代行
トータル物流管理

商品の
流れ

輸入
通関

ドレー
ジ

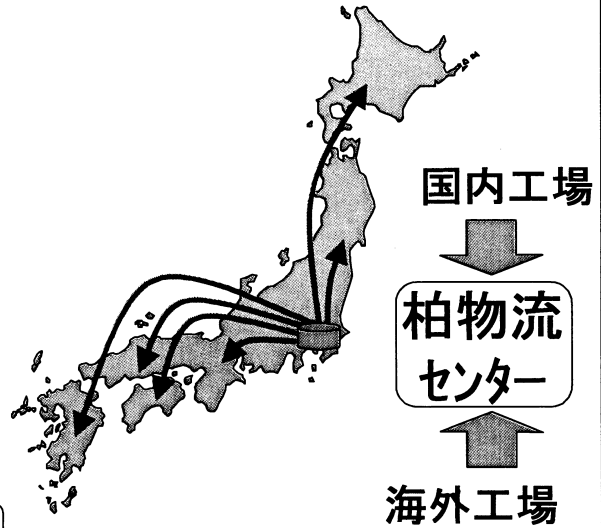
保管

流通
加工

配送

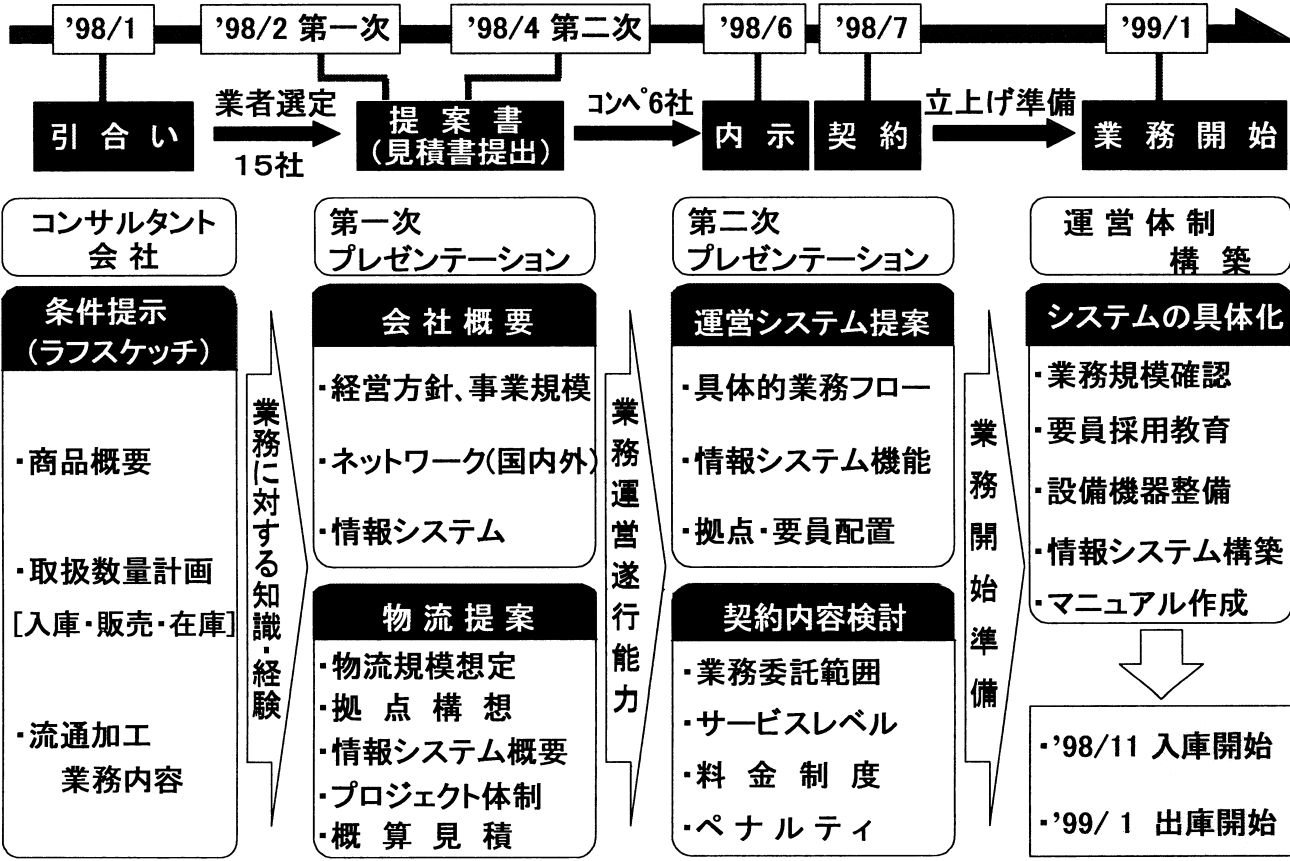
納品
先

返品



受注経緯

19



契約

契約：基本法は日本国内法に準拠する。仲裁は国際商業会議所（ICC）

契約期間：3 年

解約条項：aJ社 → 日立物流 6ヶ月前 / 日立物流 → aJ社15ヶ月前申出

インセンティブ

■ ユニットプライス導入

作業範囲毎の単価設定

@ ¥/一枚・一足

出荷箱への充填率

■ ミニマムチャージの設定

販売量の波動性

■ 基準在庫維持日数の設定

■ 特殊業務は別途料金設定

ペナルティ

■ 通関 ～ 入庫処理：〇〇Hr内

■ 配 送：標準リードタイム ⊕ 〇〇〇Hr内

■ 棚卸差額： $\begin{matrix} \oplus \\ - \end{matrix}$ 相殺 〇.〇〇 %迄無償

■ 誤 出 荷：〇.〇〇 %

■ 破 損：〇.〇〇 %

(2) 3PL事業の推進体制

6.3PLに必要な人材の確保・育成

1) 人材の育成・確保

社内営業教育の実施

3PL要員強化

教育名	目的・内容
物流システムコース	物流システム構築する技法の習得
商談技術コース	提案型営業技法の習得
戦略的営業活動 研修	ロジスティクスソリューションビジネスに対応出来る 戦略的営業力・指導育成力の強化を図る
3PL基幹要員研修	3PL事業における営業所運営の実践的 知識・スキルの習得

○ ソリューションビジネス(3PL)要員の増強

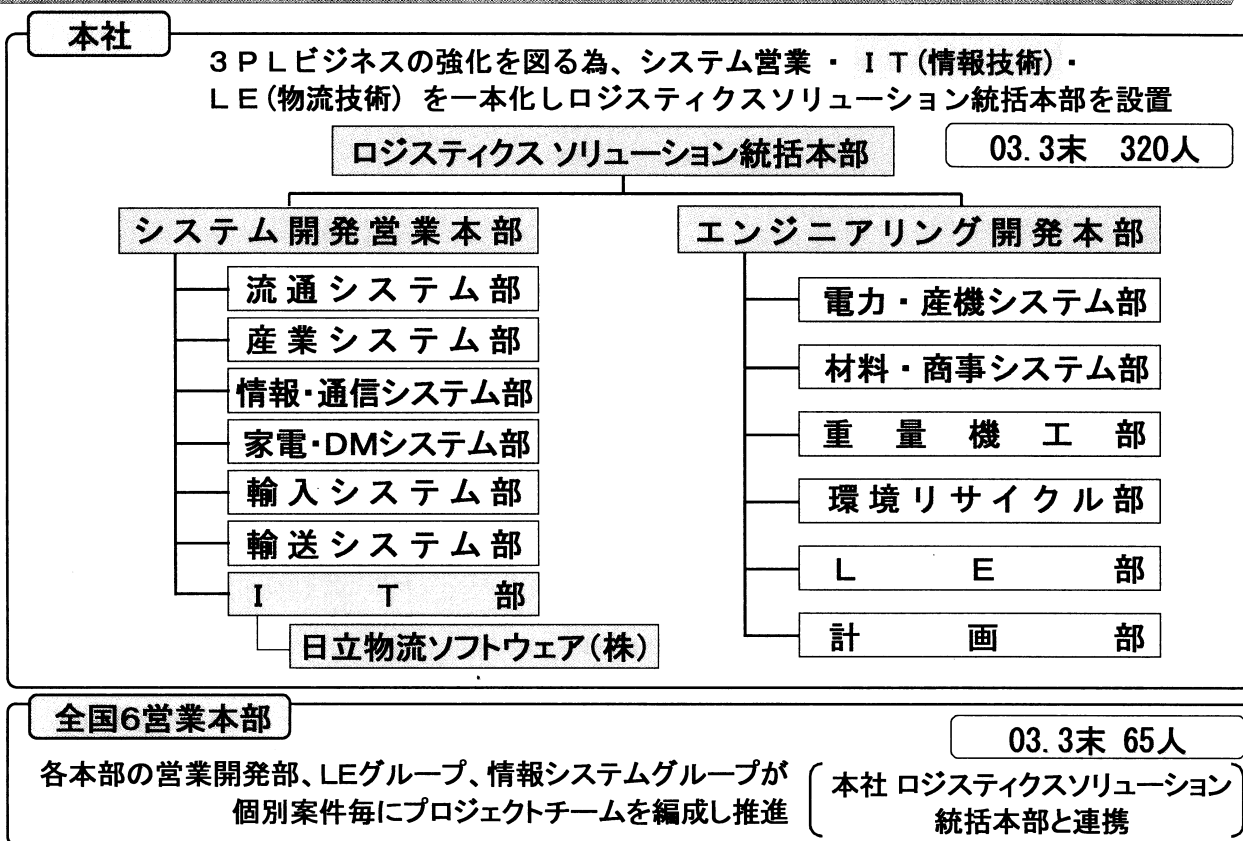
▷ '02 : 385人

➡ '05 : 530人

(2) 3PL事業の推進体制

2) 営業・開発体制

22



(2) 3PL事業の推進体制

3) 運営体制

23

ー ローコストオペレーション体制の構築 ー

玩具メーカーの事例

チームリーダー

庫内配送

輸配送

IT

LE

運営責任者

物流事務

構内作業

配 送

専属車配送

路線配送

	物流事務	構内作業	配 送	合 計
自 家	6	2	1	9
(内、顧客からの受入)	(2)	(3)	(1)	(6)
関 連	3	8	1	12
パート	7	58	0	65
アルバイト				
外 注	1	10	7	18
合 計	17	78	9	104

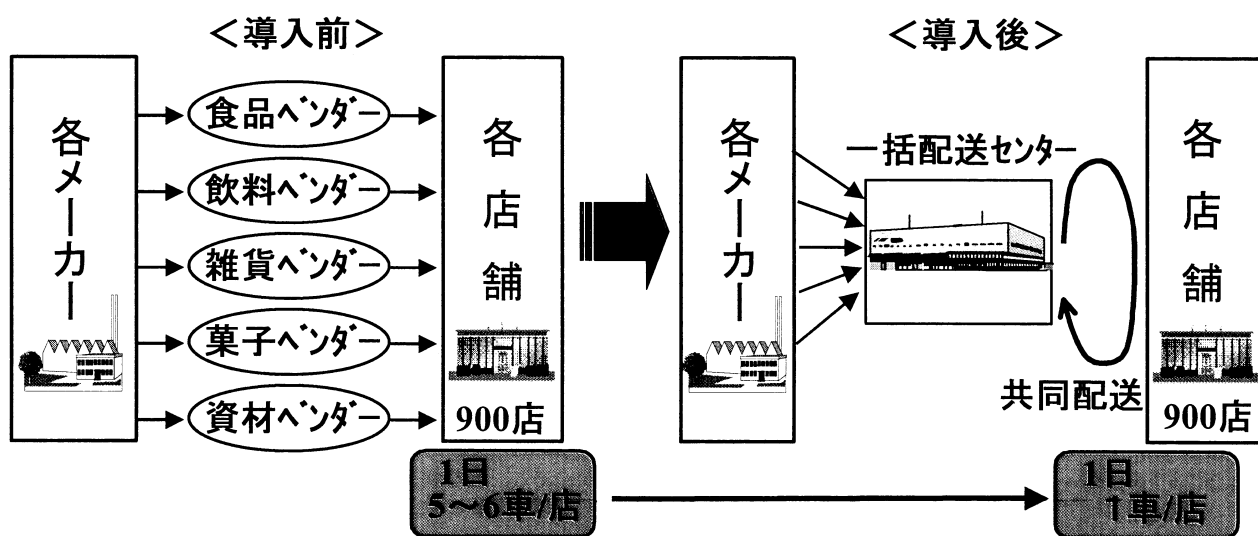
カテゴリー	地区	人員数
大型量販店	関西拠点	388
大型量販店	兵庫拠点	182
大型量販店	九州拠点	132
大型量販店	四国拠点	31
大型量販店	新潟拠点	32
大型量販店	北陸拠点	54
ディスカウント店	九州拠点	240
酒類問屋	多摩拠点	144
菓子メーカー		
麺メーカー	多摩拠点	83
合計		1,286名

★ アルバイト・パート人員数(社員・ドライバー除く)

受託による効果

8.受託による効果

CVSDドライ品一括物流導入事例



効	・コスト:30%ダウン
果	・車両数:延べ1日 300R→100R



1. コスト低減

- 1-1. 同業他社に勝つコストのミニマム化
- 1-2. コストの変動費化
- 1-3. 人・倉庫・設備・車両のノンアセット化
- 1-4. 無在庫化(VMI)

2. CSの向上

- 2-1. リードタイムのミニマム化
- 2-2. 入出荷・在庫精度の向上
- 2-3. 多様化する納入ニーズへの対応
(検品・流通加工・JIT納品・棚入納品)
- 2-4. IT構築力・一歩進んだ新システムの提供

3. 顧客負担の軽減

- 3-1. 顧客社員の低減(作業・事務人員)
- 3-2. 受注代行・発注代行

3PL事業の課題

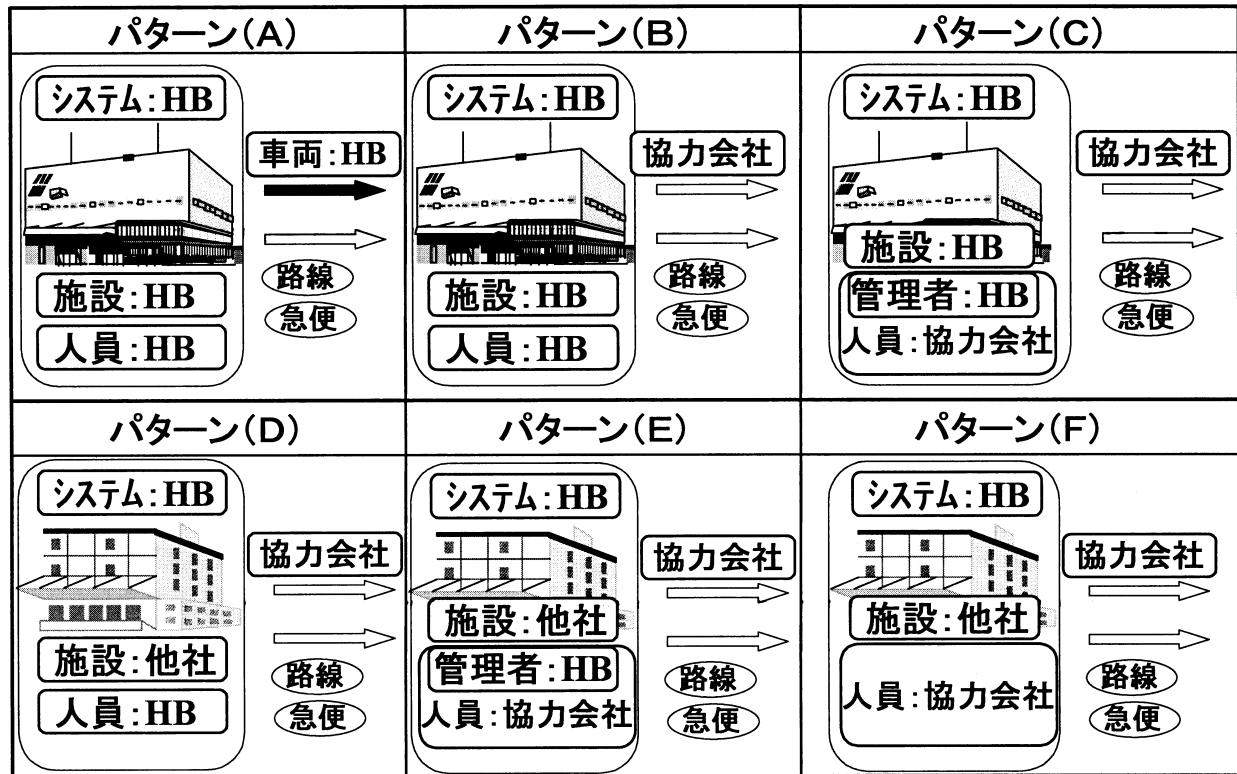


(1)「WIN－WINの関係」になるビジネスモデルの完成

(2)グローバル3PLの高度化

(3)お客様同志の協調による新サービスの開発

(4)同業他社との協調による物流実務サービスの強化



行政に対する要望

11.日本における3PLビジネス拡充に向けての条件整備

29

1. 物流施設関係

- 1-1. 市街化調整区域内での建設可能施設の拡大
- 1-2. 営業倉庫等に関する構造基準、建築確認基準の一本化及び緩和
ex. 中2階構造、防火壁構造
- 1-3. 建築物取得時における不動産評価額の軽減

2. 貨物自動車運送事業関係

- 2-1. ディーゼル車廃棄ガス規制に対する補助金制度の一層の充実
- 2-2. 料金規制の適正化

3. 道路・港湾関係

- 3-1. 営業車両に対する有料道路の料金見直し
- 3-2. 港湾荷役時間の見直し



建築の促進・雇用の拡大・経済の活性化